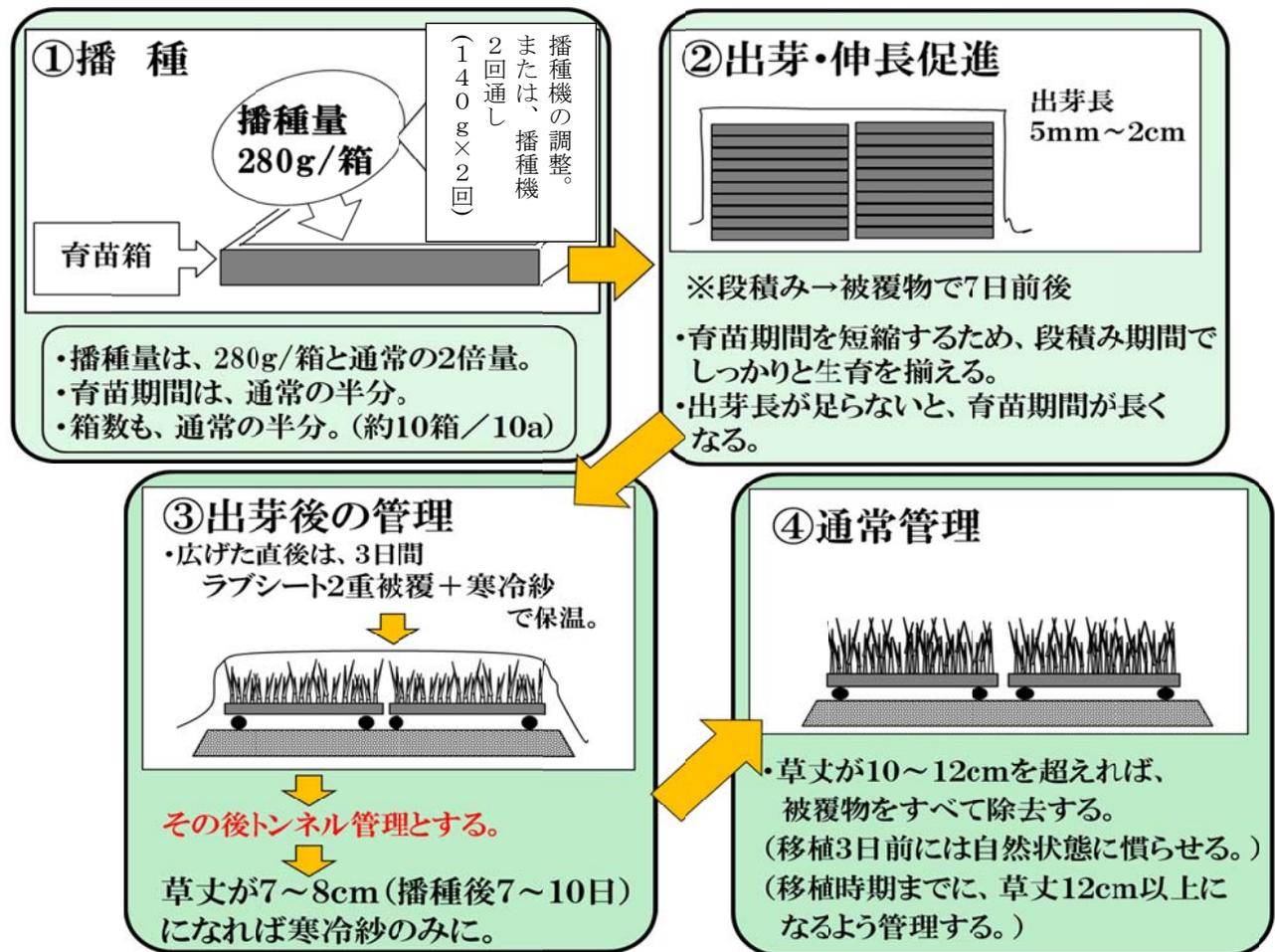


「短期苗」栽培のてびき

「短期苗」は、催芽籾を1箱あたり約280g播種し、二重被覆することにより約14日間の育苗期間で機械移植可能となります。

この技術は新たな投資を必要とせず、既存の機械・資材をそのまま利用できます。

普及センターでも平成23～26年度に試験展示圃を設置し、一般的な栽培方法と比べても収量品質は遜色ない結果が得られたことから、技術の普及拡大を進めています。



○取組時の注意点○

- ・播種量が非常に多いので、移植遅延が予想される場合には「老化苗」に注意が必要。
- ・箱剤処理は1箱あたり50gを厳守。さらに、本田期の病害虫の発生には注意が必要。
- ・栽植密度は50～60株/坪で、1株当たり4本植えとなるように、田植機の調整を確実に実施すること。
- ・ジャンボタニシの食害回避のために、大豆跡での栽培が好ましい。

「短期苗」のメリット

① 「タマネギ・麦の収穫作業」と「水稻育苗作業」の競合が解消されます。

短期苗なら、タマネギや麦の収穫ピーク後（6月10日以降）に播種しても、田植えに間に合います。

（例）

作物	5月下旬				6月上旬					6月中旬					6月下旬				
	24	26	28	30	1	3	5	7	9	11	13	15	17	19	21	23	25	27	29
タマネギ	←				収穫					→									
水稻(慣行)					播種	苗広げ			ラブシート除去						寒冷紗除去				
水稻(短期苗)										播種	苗広げ			被覆物除去		田植			

② 苗の運搬作業が楽になります。

短期苗なら、使用箱数が大幅に減るため、田植えの苗運びも減り、運搬も楽になります。

特に、遠方に圃場がある場合や、多く圃場を持っている場合などは、運搬回数が減り、苗補充作業も少なくなるため、作業にゆとりが生じます。

③ 省力低コストで収益アップ。

これまでの試験においても、短期苗は、慣行並の収量・品質となっています。表1のように使用箱数や育苗コストが慣行に比べて削減できるため、省力低コストになります。

表1

地区名 (品種名)		玄米重 (kg/10a)	検査等級 (1等~)	使用箱数 (箱/10a)	育苗コスト (資材費のみ)
白石町 (ヒヨクモチ)	短期苗	584.2(104)	2等上	12.3(72)	4,325円(82)
	慣行苗	558.3(100)	2等上	17.0(100)	5,250円(100)
大町町 (ヒヨクモチ)	短期苗	617.9(99)	1等中	9.5(45)	3,423円(54)
	慣行苗	618.4(100)	2等中	20.0(100)	6,335円(100)

注) 玄米重、使用箱数、育苗コストにおける()内の数値は、慣行苗を100として表したものの。